

「総ぐるみ」新聞

NPO 総ぐるみ福祉の会

所在地：「京急ニュータウン」バス終点 徒歩2分

住所 横浜市港南区日限山4-39-19 日限山ハイツ101号室
電話 045-846-8850 FAX 045-370-7272

介護サービス事業・総合事業・ボランティア事業の3つをバランスよく伸ばす

5月26日の第18回通常総会を前に総ぐるみ福祉の会は前年度の事業実績を発表し、総会資料として会員の皆様に配布しました。

それによると昨年度の事業実績のあらましは次の通りです。

まず、昨年度の事業を大きく分けると、①「居宅介護」「障害者介護」などの介護サービス事業、②たまり場「こぶし」を中心とした「総合事業」、



③「日限山荘」などのボランティア事業の三つに分けられます。

事業の第1の柱である介護サービスについては、利用者の方々が高齢になり老人ホームなどへ入所するケースが増えましたが、障害者介護サービスの増加などもあり、計画を上回ることができました。

なお、当会の介護サービスは、移送介護の比重が高く、新たに介護車両（左上写真）を1台購入するなどコスト負担や配車の難しさなどの課題がありますが、これに取り組んでいることが当会の居宅介護サービスの特徴ともいえます。

参加者2千人を超えた「こぶし」

一昨年の介護保険法の改正により「要支援者」の管轄が市町村となり、介護予防が地域のボランティア団体やNPO等に任せられるようになりました。当会は、それにいち早く対応して、事業の第2の柱として「総合事業」を立ち上げ、日限山ハイツ101号室に「こぶし」を開設。手芸（下の写真）・男の料理・カフェこぶし・パソコン勉強会・総ぐるみ囲

碁交流会・健康麻雀・こぶし歌会など多彩なプログラムを実施、その結果、参加者数は延べ2000人を超えました。

なお、日限山地区には「こぶし」のほかにもいくつかの「たまり場」がありますが、日曜日を除くほぼ毎日何らかのプログラムを実施している唯一の「たまり場」は



「こぶし」だけだといっても過言ではありません。

（第2面に続く）

「日限山荘」の利用者数は年間延べ2710人

昼食会の枠を超えている「日限山荘」の団らん

事業の第3の柱であるボランティア事業もほぼ計画通りでした。

男性が増えた「日限山荘」

中でも地域のボランティアの方々による手作り昼食を週2回、毎週火・金に提供する「日限山荘」。開催日数は年間91日、延べ参加人数は年間2710人に達しました。ほかに、日限山荘では正月恒例の「初釜」を開催し、24人が参加。

最近の傾向としては「初釜」もそうでしたが、男性の皆さんの参加者が増えたこと。こ



日限山荘では毎回約30人分の昼食を用意します

の背景には、独り暮らしの男性世帯の増加もありますが、日限山荘が地域の皆様の単なる集いの場所から一歩進んで、大家族的な団らんを楽しみ、食事や会話をしながらお互いの心身の様子を確認し合う場所にもなっていることもあるようです。

また、高齢により歩行困難な方も増えており、昼食会と同じ食事を密閉容器に入れて配達していますが、その際に、健康状態の見守りなどを兼ねたコミュニケーションの実施にも心がけてきました。

「お出かけサポート」の新しい試み

足の不自由な方を話題の場所にご案内する「お出かけサポート」。昨年は大型バスをチャーターして5月と11月に実施。ヘルパーも参加した結果、利用者の皆さんとヘルパーの新しい交流の機会が生まれたとかなりの好評でした。

医療講演会と「おとなのひなまつり」

自治会館を使って行った事業としては、10月と3月に開催した医療講演会が2本あげられます。いずれも講師に湘南鎌倉総合病院の先生をお招きし、高齢者の健康に密着したテーマが好評でした。

また、日限山いぶき会との共催による「お

となのひなまつり」も春の企画としてすつかり定着したようです。

「模擬店の出店」

当会は以前から「たい焼き」や「手芸品」の模擬店を出店していますが、これが評判になり、今では地域の催しの目玉(?)として主催者から声がかかるようになりました。ちなみに昨年度の実績は次の通りです。

舞岡町内会「舞岡川鯉のぼりフェスタ」(5月3日)、「ケアプラ」フェスタ(5月3日)、「日限山」(6月2日)、「西洗ワイワイ夏祭り」(7月21日)、「上永谷ホコテン」(9月16日)、「港南区ボランティアフェスティバル」(11月18日)。

今年も「舞岡川鯉のぼりフェスタ」に

5月3日、今年も「舞岡川鯉のぼりフェスタ」に手芸店とたい焼き店の2店を出店、大忙しの日でした。

